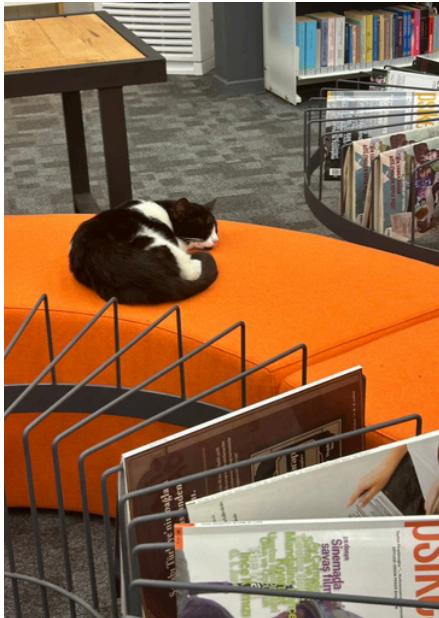


Nombember.

IZUMIL
ECONOMIC
UNIVERCITY



イカメット 必要な書類とその集め方

写真2枚

写真屋さんに行きましょう。
基本的にどの店もイカメットに対応しているのでどこでも大丈夫です。デジタルデータも忘れずにゲットしてください。

大学からの書類三種

1. 入学許可証（英語）
2. 入学許可証（トルコ語）
3. 学生ビザに関する書類

住所に関する書類

私はアパート住みなので大家さんにお願いしました。他の留学生の大家さんも書類の用意方法を知っているようでした。何度も催促しても全然くなかったので早めに話しておきましょう。原本とコピー必須です。

健康保険

大学で入った海外保険とは別にトルコのイカメット用の保険に入ります。
実際に使った会社のリンクです。
<https://www.e-ikametsigorta.com/en>
支払いが終わったらメールで書類が届くので、それをコピーしましょう。

手数料の支払いと領収書 (事前に税金番号取得)

手数料は810TLでした。
税金番号はオンラインで取得できます。
(<https://share.google/edZq5Ph5DpVjyRSS>) 私は知らずに、税務署まで突撃してしまいましたが、職員の方が親切に教えてくださり、ターキッシュコーヒーとお菓子をくれたので全く後悔無しです!

Ikamet and Midterm Exam

まずはイカメットとは、滞在許可証のことでのことで、簡単に言うとトルコ専用のビザのようなものです。90日以上滞在する場合は必ず取得しなければなりません。かなり大変でしたが、今月中旬、ついにイカメットのカードをゲットすることができました!! そのプロセスをお伝えしようと思います。

表に記載の書類を集める

専用オンラインフォームで提出
役所に行く日を決め、
書類を持参して行く
(当日までに必ず手数料を払う)

↓
不備が無ければ家にカードが届く

基本的に左の表に書いてあることがほとんどですが、補足説明を加えます。大学の書類についてですが、1は、留学が決定した際にメールで届くので日本にいるうちにコピーして持って行きましょう。2は、現地についてからメールで大学に頼みました。3は、大学内にあるstudent affairsに行ってお願いしました。これから留学する方は、大変だと思いますが頑張ってください。

今日は中間試験期間がありました。体感的に、この期間は生徒たちの雰囲気に緊張感がありました。私も、ルームメイトをはじめとして、友人からいい刺激をもらい、よく勉強しました。

大学で友達と勉強したり、今まで気になっていたカフェや、ビジュアルの良さそうな図書館を開拓したりして、娛樂と結びつけて勉強しました。



Clothing Historyという教科には、美術館に行って彫刻の絵を模写するかなりクールな課題がありました。これに関しては全面的にノリノリで取り組めました。(写真中央)



Cappadocia Trip (November 28-30)

留学生たちとESN主催のカッпадキア旅行に行きました。着くまでなんと、27日の夜からバスで12時間かかりました。Kaymakli（カイマクル）地下都市、Uchisar Castle（ウチヒサール城）、Esentpe（エセンテペ）のキノコ岩、何種類かの谷、陶器ワークショップ、乗馬、宝石店訪問、Turkish nightなど盛りだくさん訪れ、体験しました。カッпадキアと言ったら気球！と誰しもが想像するでしょうが、逆サプライズの悪天候で、乗ることは勿論、見ることさえできませんでした。しかし、一緒に行った人たちが良かったので、笑いが絶えることなく過ごし切りました。



これらの中でも、特に乗馬が様々なギャップがありました。Hourse ridingと聞いて、颯爽と馬と駆け抜けるシーンを想定していましたが、待てど暮らせど列に並んで歩くだけで、そのまま終了しました。友達が後ろからずっと、遅い、走らないの？まだ？と困惑英語を話していて面白かったです。また、私の前の馬が、かなりの頻度で歩きながら用を足すので、景色よりもその事態に注意が逸らされそうでした。更に、ありがたいことに同行員さんが撮ってくれた、動画のカメラワークがインフルエンサー級に巧みで、予想外の感動がありました。異世界のような景色を、馬に乗りながら堪能できて贅沢な時間でした。

加えて、Turkish nightも初めて見るものばかりだったので印象的でした。洞窟のような空間に長テーブルが、パフォーマンスエリアを中心に並び、おつまみと飲み放題のお酒が楽しめます。ポップコーンが出来たてでみんなして大量に食べて何皿もお代わりをもらいました。パフォーマンスでは、民族衣装を着た方々がダンスや演奏を披露してくれました。年配の男性がダンスに連れていかれたり、子供がその周りをチョロチョロと走っていていたりとユニークな光景が何度も見られて友人と非常に笑い合いました。また、大人数型のコーナーもあって、トルコ版のマイムのような輪に皆で飛び込み、独特なステップを習得しました。終盤にはトルコの最も有名なアーティストのタルカンのSimarikという曲に合わせて踊りました。トルコ語なのにわかる曲が来た！と、ローカルの人々に近づけた気がして嬉しかったです。



いつもはあいさつ程度だった留学生とも、しっかり話すことができたり、他の大学の留学生とも交流できたことも、旅行に参加して良かったなと思う理由の一つです。気球のリベンジは死ぬまでに果たしたいと思います！